

「滴下・波紋モデル」による遠隔，ICT活用指導の充実を目指して！

広島大学

協力学校での遠隔指導，遠隔観察，遠隔会議，遠隔研修の実施

滴下過程

東広島市立西条小学校 合理的配慮としてのICT（アシスティブテクノロジー：AT）の活用法の指導を通級指導教室の自立活動の時間に遠隔で実施することを通して，遠隔でのICT活用指導における機能性，実行性を確認する。肢体不自由特別支援学級の授業を遠隔で観察し，その情報をもとに遠隔でケース会議を実施することを通して，遠隔での観察，ケース会議の機能性，実行性を確認する。

- ・ **東広島市立寺西小学校** 通級指導教室・特別支援学級在籍の児童の読みや書きの評価を行うためのアプリを開発し，それらを遠隔での自立活動の指導で活用することで児童の実態を遠隔で評価することの機能性，実効性を確認する。それに基づいた指導を実施する。
- ・ **広島市立本川小学校** 弱視通級指導教室の担任（初任者）の遠隔での定期的な研修会を実施することにより，遠隔研修の機能性，実行性を確認する。【ポイント】遠隔指導の機能性と実行性について

機能性及び実効性の質問紙調査結果（最頻値）

	遠隔指導の機能性	遠隔指導の実行性	観察会議の機能性	観察会議の実行性
小学校教員	3.0～5.0	4.0～4.5	4.5～5.0	—
大学教員	5.0	1.0～3.0	5.0	1.0

- ・ 大画面，遠隔操作カメラの遠隔システムは対面と同程度の画像・音声の伝達力を有し，機能性の点で十分であること。
- ・ コミュニケーション面は受講側は不十分，指導者側は十と感じており，ビデオ通話以外の補助的コミュ手段が必要。
- ・ 実行性については，受講者（小学校側）は負担に感じ，授業者（大学側）は負担がないと感じていた。改善の余地。

【ポイント】遠隔観察・会議の機能性と実行性について

- ・ システムは，対面と同程度の機能性であった。
- ・ 多機関の職員が会した観察や会議を低負担で実施できた。

波紋過程

指定校での実践を共有

- ・ 指導プログラム，指導ビデオによる共有

iPad：10本，Windows：2本，Chromebook：6本の研修動画を，遠隔指導の指導過程を参考に製作し公開した。

- ・ 研修会での共有

遠隔指導の指導過程から得られた指導内容を遠隔研修会を実施し，Google Classroomにて共有した。現在の登録者数は150名（2023年5月4日現在）である。

波紋過程の質問紙調査結果

	最頻値
児童生徒の実態に応じた指導	4.5
ATの活用力を身につけさせる指導	5.0
児童生徒にATを指導する意義の理解	5.0
ICT機器を使いこなす自信がある	3.0

【ポイント】波紋過程の効果

- ・ 研修とビデオは教員のICT活用に貢献していたこと。
- ・ 教員が自立活動でのICT活用の自信に貢献していたこと。
- ・ 今後も，遠隔研修会への参加を希望していること。

5.0がポジティブ，1.0がネガティブな選択肢

上記のことから「滴下・波紋モデル」有効性を示したことで，遠隔指導可能な自立活動の指導区分及び項目を示したことで，読み・書きの評価アプリを開発できたことが本調査研究の成果であるといえる。